

題 電池推進船「らいちょう I」に試乗させていただきました

航海士 長谷川 光

## 皆さんは、電池推進船と言う船をご存知でしょうか？

通常船舶は、重油、軽油及び、ガソリンといった化石燃料で動きます。

ところが、東京海洋大学海洋工学部（旧国立東京商船大学）の清水悦郎教授が研究している電池推進船は燃料を一切使わず電気のみで運航する事ができるのです。

今回は、東京海洋大学所有の電池推進船「らいちょう I」に乗船させて頂く機会を得ましたのでその様子をご紹介します。



図1 電池推進船「らいちょう I」



図2 操縦席

## 燃料を使用する船との違いを感じました。

船舶は、出港させる前にエンジンを暖めるための暖機運転を行います。一方、「らいちょう I」は乗船後にスイッチを押すとすぐモーターが起動し、出港することができました。

また、エンジン音がないため船内は静かで、波の音が心地よく、大きな声を出さなくても乗員同士がスムーズに会話をする事ができます。

そして、油類を全く使用しないため、油の漏洩による海洋汚染や排気ガス問題もなく、とってもエコです。また、船の油の匂いや排気ガスがないことに加え振動も少ないため、船酔いしづらいかもかもしれません。

## 「らいちょう I」を操船してみても

さらに今回は、乗船のみで終わると思いきや、なんと、我々「ほうじょう」の船員二名は、東京海洋大学前の運河で「らいちょう I」を操船させていただくことができました。

操縦席に座るとすぐに、見慣れた航海計器が一つもない事に気付きました。また、実際に船を動かしてみると、とても舵の利きが良く、『舵輪（船のハンドル部分）操作がこんなにも軽いのか!』と驚きました。

それもそのはずです。「らいちょう I」は舵板がなく、船外機船のようにプロペラと一体型になっているユニットが搭載されています（図4）。そのため、船の向きを変えようとするプロペラと一体となったユニットの向きも変わり、操縦性能が良いためその場での旋回も簡単に行なう事ができました。

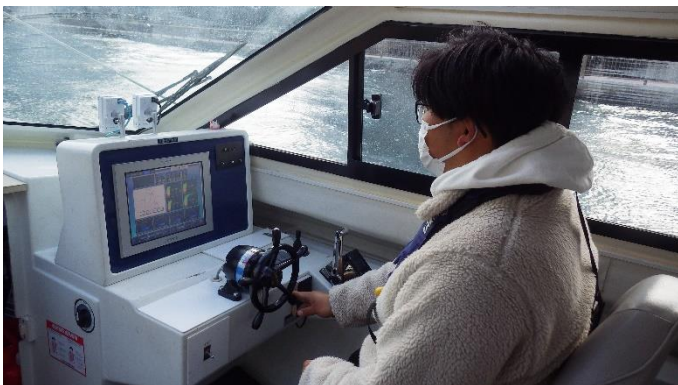


図3 「らいちょう I」を操船している私



図4 プロペラと一体型のユニット

## 最後に

今回、我々が乗船させて頂いた電池推進船「らいちょう I」は正に未来の船でした。

東京海洋大学の清水教授から、『近年の重油や軽油などの燃料が高騰していることや国が 2050 年までにカーボンニュートラルを目指すとしていることから、燃料を一切使用しない電池推進船に沿岸漁船などを変えていきたい。』という話を聞き、世界中の海を走っている漁船や商船、旅客船などの船舶が電池推進化した姿を想像し、とてもワクワクしました。